KODAK Color Control Patches
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

門ル名4
帙
1606
巻1-2

藤野潔氏遺愛記
明治四十一年四月廿四日
藤野漸氏寄贈

宗教大学図書

あるべきことの事なるべし。されば
そ。代々の代のたぐひ。氏のこころ
をきれるほどをくべし。まうけをもとれる
ほどをもとり乃音まぐくも。おもくもく
しるあるべきさまをもとりて。
なほ紀をば。先帝の御。おもに道のまち
ちを。政のかくてくれてなりたる。
けのたるものは。みくにあるものは。
代々なるべしたべ。ほかだ。
形のまをすもの。為をもとりまの

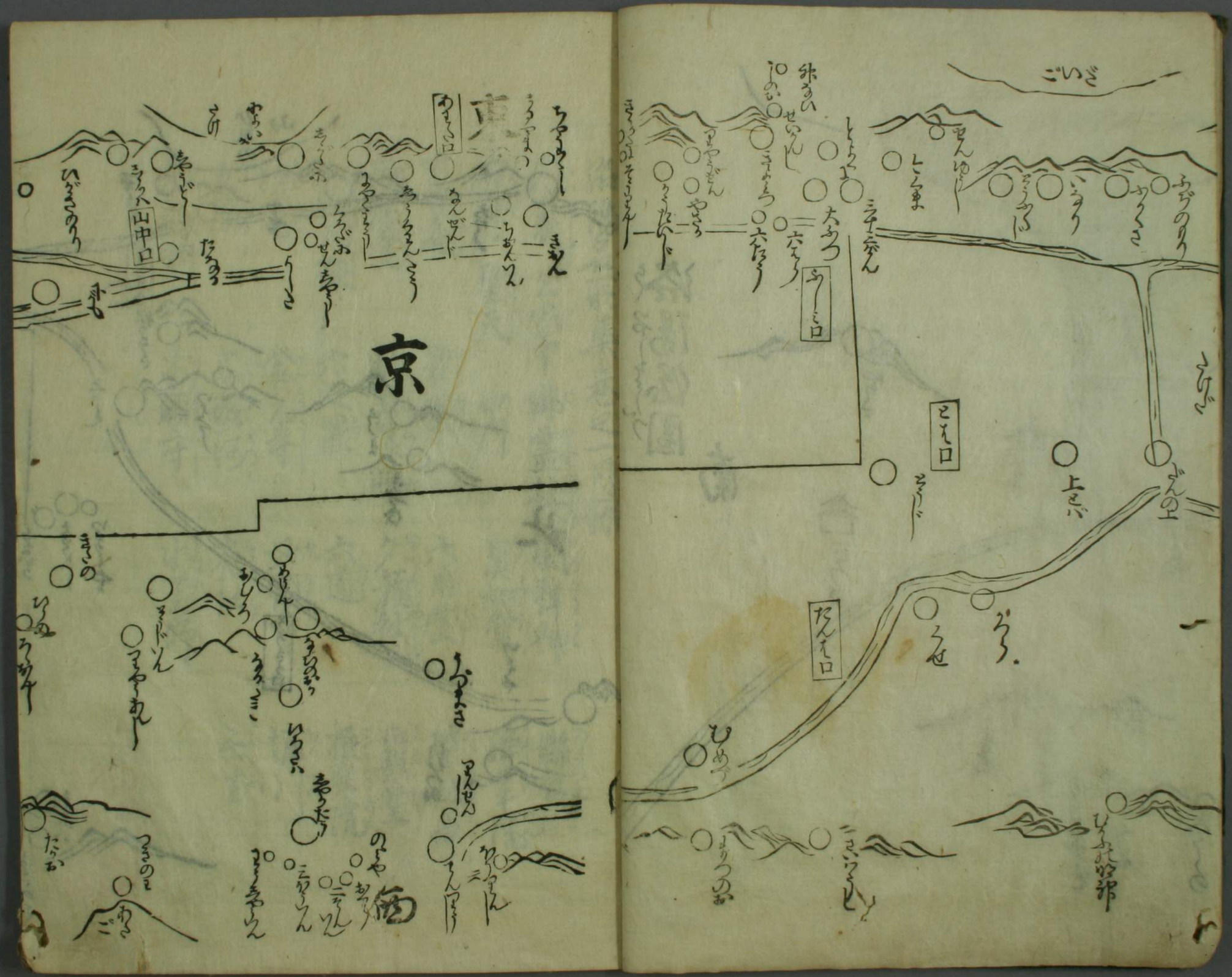
世間はなのびの宮ゝ。ひさしの間の
文字形みやこゝ。雪の形へ
なとゝ見たん仕ゝ。思ひよりく山城
のうち。郡のもゝぐひ。そ花
三百を縁なければ。東の宮寺もゝる。
人の由来伝るを考へ。つゝもゝ西
日なのゝ。おけ代ゝ。三のまぐ。ゝ
孫もあゝ。ゝふし。仕ゝ。湯名所集
ゝなばきて。十こゝ世ゝ。孫ゝく
は。のゝ人へ。ゝもゝ。ゝ

日ゝ。ゝ。雑をたゝく。友
ゝ。ゝなゝ

万治元年戊戌八月日

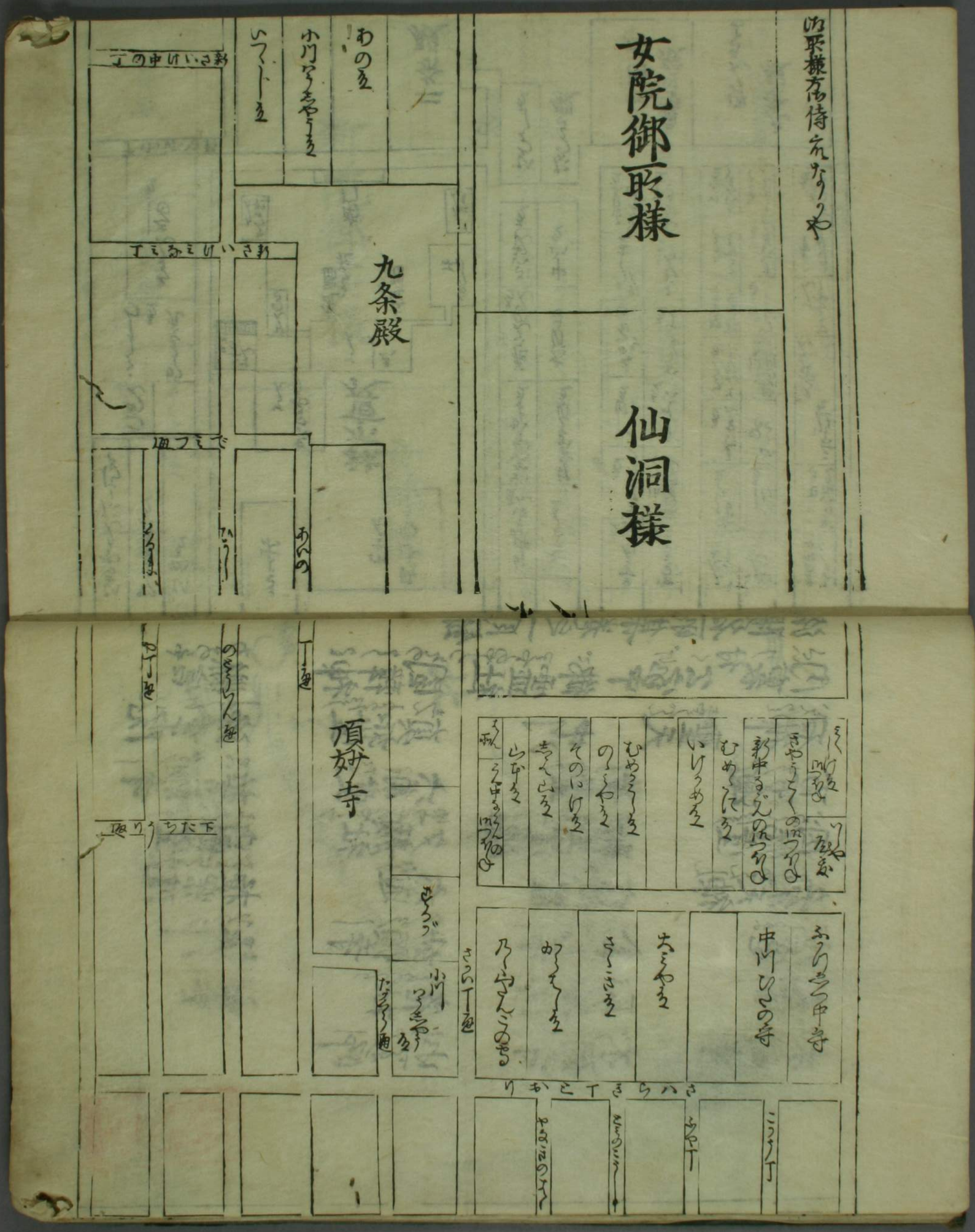
洛陽縮図

南


京
山中口
ごいさ
上ばば
たんば口

洛陽名所集巻之一目録

内裏付公家中　御霊社　園韓神　聖天　中川　百万遍　因幡堂　菅堂　新玉津嶋　北野天神　六波羅　地蔵菩薩　文殊　金光寺　耳敏河　木願寺　六角堂　真如堂　夕顔社　六道　妙顕寺　花杜　小栗師　縣宮　浄華院　誓願寺　極楽院　堀川　壬生


女院御取様
仙洞様
九条殿
頂妙寺

新院御所様

女御様

一条殿

伏見殿

高欄

林示裏

南門

二条殿

九条殿

鷹司殿

隠居

夫京師ハ大衆ノ居所ニシテ。本朝文那と漢和
もしてのごとくしく。士民ハ礼儀法禮
紙をもつぶ。業用なのせふをもとめ
けり。今の京ハ紙をつぐたりさうぶれ
ばしらふ。ひろしこ。うつり代
乃ひの家ハ。硬礦緑苔綿字と儀
まくをもつぶ。亀の尾いるがう鶴
形鑿いくこ。のこ。ハ絲作りぞ。ひろこ。なの
抑代ハ乃京ハ。ようけうかうとたる。
うどわくいるよ。地神五代乃帝。長脇
激武鸕鷀草葺不合尊。四ハ。ハ。神武

天皇（媛蹈鞴依姬海人娘也）弟乃代十二代の跡をけ八代百
王まん帝祖ゆくゆくけるまで酉のとし。
日向國宮崎郡よりくぐ皇子乃寶祚をつぐ。
五十九年ゆくえしれ。己未十月ゆ東征し。
豐蘆原中津國よりぐ傍山に都を
ひらく。橿原の地をさだめ宮殿をた
くつる。是橿原宮ゆ名付る。今の大和國
にてしらるるの。ゆ帝ゆ都を他ゆ他
ゆうつさるく事。ゆ千年ゆ及べる。第六天皇
より。景行天皇よりぐ十二代ゆ大和國郡ゆ
都をひらく。他國へ行ざるべきゆ

成務天皇元年ゆ近江國ようけ。志賀郡
ゆ都をとる。仲哀天皇二年ゆ長門國ようけ。
豐浦郡ゆ都をとる。帝ゆ。
女帝ゆ。后ゆ。神功皇后御世ゆ
帝ゆ乃後龍前の國ゆ。高麗契丹ゆ。
おゆして其ゆ。產宮ゆ。八幡ゆ
生ゆ。ゆ。應神天皇ゆ。
後皇后ゆ大和國磐金雄搖宮ゆ。
天皇ゆ。同ゆ。輕島ゆ宮ゆ。仁德天皇
元年ゆ。摂津國難波ゆ。高津宮ゆ

れたまひぬ。履中天皇二年にぞ大和國より
遷りたまふ。十市郡よりやがて反正天皇元年
に。河内國柴籬宮ぞ。また世しめ給ふ。允恭天皇
四年二月よりぞ大和國飛鳥乃飛鳥宮ぞ。即
位し給ひ。雄略天皇二年一月ぞ。同ぞ。泊瀬朝倉宮
宮居し給ふ。継體天皇五年に。山城國樂
音楽しけりぞ乃ち。乙訓郡ぞ宮居し給ふ。宣
化天皇元年ぞ大和國檜隈入郡宮ぞ。
ぞ。孝德天皇大化元年ぞ。攝津國長柄ぞ。遷り
豊碕の宮ぞ。斉明天皇二年ぞ。
大和國國中宮ぞ。天智天皇六年

ぞ。近江國大津宮にぞ。天武天皇元年
に。また大和國ぞ。思ひ乃宮ぞ。
ぞ。是ぞ淨見原の宮ぞ。元明
武二代乃聖朝。藤原の宮ぞ。七代。
天皇ぞ。光仁天皇ぞ。
ぞ。桓武天皇乃古字延暦元年
十月三日ぞ。たまひぬ。京。春日宮ぞ。山城國長
岡ぞ。十年ぞ。正月ぞ。大納言京家元
參議左大弁紀古佐美大僧都玄慶ぞ。
ぞ。四年。狭井の池の
ぞ。葛野郡郡字

村よ帝都にさだめられぬ今乃京ぞや
そもそもこゝろ万治元年乃比歳しいくるまで
八百ゝ千ゝ年めぐりぬ聖帝代わ
きらのゝまことこの平安の地こ
そ千代万世をふるとかつゝもりのを
とのゝあひけるぞとゝろひろくく
ゆひたるまと

郷雲社

○此社上中下村ゝ所ゝ沙ゝと王城の東ゝゝ
世清ゝ桓武帝の時畢良太ゝ井ゝ門親王の契ゝとなす
最ゝ法師帝に言ゝ社とゝ八社の神ゝとゝなり
吉備聖霊　崇道天皇（早良親王）　伊豫親王（崇道天皇の子）
藤原大夫人（伊与王母）　藤大夫（大宰少貳兼左少将藤原廣嗣）　橘
大夫（逸勢恒貞の父）　文大夫（文屋宮田丸）　火雷天神（小野
合第一の神）

園韓神

○此神八禁中にゝ
延喜式ゝ園神一座韓神二座ゝに宮門前に坐ゝ二
月十一月の酉日にゝ祭ゝとゝ主ゝのゝゝうゝさゝに

あまてらすおほみかみのうぶすなのみやくいのん

縣宮

○此宮ハ一条の小東洞院の西なりしに拾五町ばかりを
今考るに禁中西の小路門の南よりこ小路
中御門光之ふ我たのむわるのそのもりにく
もるあるけをあふさてそもり

石神

○此所ハ秋迎堂より三町東聖天の西藤やえ内家
乃ふるふるふるとるる

聖天

○もハ法陽の仏ふるく。あ分会とせり西と家の負と

中川

○此川ハ或人の説ハ此雲のうしろ小ふりすぐるもの
式部倉橋ふりとふ川とおくなりぬ川のけん後
ふるあと中河乃小ぬ川後ふのにぬ此なるぬ
せきふくあるそしき中川の宿

真如堂

○此寺ハ今ハ川寺町ふ堂西南也ふる行ふ院仏菩
覚の仏ふ。ふりとひ忘れふるこや。心門の男ふる
毎年十月六日ふるとふ五日ふく男女群集ふ

浄華院

○此寺ハ真如堂の南也ぬ堂西面浄土宗門の西者ふ

酒堂に四福の行ひ。普ハ禁中の仏なる故。年号なり

百萬返

○此寺ハ淨義院の南。初恩寺と号し。秋迦堂高ク師堂ハ南面也。月ヨリ日に百万返の塔婆をたてく。念仏をとなへ。ふるこゆへ。俗ニ百万返と云。ひと賀茂よりそ。となり。

法然のゝ淨恵と云僧。信仏者と大そうやゝけるを。ひさ。病ゆへ。信仏者と語りあひ

華堂

○此堂ハ寺町西ニ京にて町上也。ひ。二条池水流れ有り。

願寺と云。行圓法師の御墓

行円と漢西の人也。覚仏ニ手に。帝城あるひ頭宝冠とてご紀ゆ。と華厳とさそるゆへ。松の人華上人とも人ゝ。ぶ。ゆ。ものの社のゝ。ひ。ろ。ひ。ろ。ひ。ろ

○ひ堂、三条より一町さがるこ町ゝ
願法寺。むかし清盛の御ぞうを造て法華
経をこめ給ふ。法華堂とも法華
さ行つ。如意輪観音の像
三尺天ゝとつくり
彩色し給へり。
像とこうゝ
ゝ像ゝ
ゝ
ゝ

三宿に泊り給ふの法花伝を授け給ふ時
三ようり二人の女てうぜ方の法花伝賢聞義画答
の仏師ぞうこと也ぞうへ。ぞうこと
ぞうぶ申のく仏沢わ〳〵八ぞ出くぞ。八式仏師ぞうこと
なるを仏ぞうへゆへ。ぞう同神の真仏ぞう後桓武
帝南都ぞうぶ法へぞうけぞうのぞうこと八百餘年
○
誠心院 誓願ぞうのぞうこと律ぞうふこと和泉式部墓
ぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞう
紫式部 紫式部ぞう雅致の女也。朝暮人のんとぞうこと
みくぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞう
ぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞう
又一遍上人今ぞう摂現の初へぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞう
ぞうぞう和泉式部亡霊と談ぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞう
ぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞう

因幡堂

○ぞう堂ぞう薬師ぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞう
なるぞう薬師也大仏ぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞう
ぞう薬師ぞうぞう因幡国ぞう浦ぞうぞう漁網ぞう入ぞうぞう
ぞうぞうぞう中病ぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞう
同帳ぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞう
ぞうぞうぞう薬師ぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞう

新田津嶋

○此社は五条松原通東洞院を入町や
[illegible]此社は[illegible]大伽藍[illegible]百両の
[illegible]社頭祝言[illegible]今[illegible]
[illegible]の玉津島姫[illegible]此社[illegible]の[illegible]
[illegible]園[illegible]の[illegible]
[illegible]玉津島姫

夕顔社

○此社は富小路通五条下る町[illegible]夕顔の
[illegible]

地蔵堂

○此堂は五条の橋通[illegible]町西へ入町[illegible]

五条天神

○此宮は五条通油小路より西洞院[illegible]
毎年[illegible]の来[illegible]此社[illegible]
[illegible]

六波羅

○此寺は建仁寺の南也[illegible]
[illegible]音[illegible]海[illegible]像[illegible]
○六道[illegible]六[illegible]七月[illegible]
[illegible]伝[illegible]といひなすもの

極楽院

○此西は五条の橋門[illegible]
[illegible]

さらさらとぶらふて猟師に着し。門をたゝかり人
よこしつさらさらとうち猟師はやなりしくもひくを角
をとりひ杖をつき猟師こゝに伝ひとちあさまこなり。
さらの手ぶくろ姫君の帯御ぶくろ
ちうし時。山ふり数十人あらしかの立ちの薬角を持
庵よりく会伝るへ知ぐりりをとりわ

塩竈

○山ふ山ふ山ふなり源蘭の浦澄奥の千ちの塩竈
ぬるこどりうつきまつ
紫平ちの塩竈こいつきさにうん数なきさうちもうん
もるにうちうんこ貴ちこ者まきく煙ぬえ

一塩竈ぬ漁さひしくもうちぬとうち
もみかるかぬ けりくとうくうり

金ぶん寺　七条ちの場

此寺ハ東洞院の東七条の南こ一通ち二人の侍基や
一通ハ名ハ智真房伊ら此人ハ野七良兵衛ハ三男ちり。
門ハ惣七郎無家云妻二人ちこ。東ハ時妻ちえ殺と称ち。孫
ちうこ二人のちうこ。蛇ちぬくぐひやいうるぐ
てかさる代めさ中ちりをくぐてかうりうん
けうこぐめハ天台宗ちるこ八歳ちり西山善恵
上人此ちこ下ちてうり浄土宗をこうこけ事
上ちのうち建治ちの中ハぐのふまのり夏

に推挙を蒙り、綸勅をうけ、信濃国に下り、
名りさて、仏の二女を、出家し、一遍上人に随従せり。
をとはやうもなく、今、時宗ふくさり、書写せる六十
万人決定往生の札を出し、業法は遍陽なり

妙頭寺

○此寺は、ぶ川のふ乃端、一条ろ、立町ろり、西に、日蓮
宗なり。日像乃開基なり。日蓮宗首の寺、やこよい
ちくしつまるつ中一なり

日蓮上人は、三河氏、父遠江国の人、貴族の室賓、男
室忠、母日蓮、室忠、宋定のあや、室忠、遠州より安房国
長狭郡へすぐれ、労分、安清氏や、常に

朝日を拝せんとて、ひとりたちいでて、夢をみたり。
つまり、貞元元年二月十六日ふ誕生、十二歳と
ちく、問四乃清澄寺に、寺にて、道善房を師とし、ふ
ち、九歳、十八歳、ふくろ、日蓮と、ひろめ
国城寺ふく、学問し、諸宗ふれ、三十二歳の二月十
八日ふ初く、南無妙法蓮華経の七字ふ、ひとなへられよ
つ、ものに入、時頼ふ、法をけ、ものと、ぶ、
歳乃、九月十三日に、伊豆国伊東へすぐれ、ありあ、河ふ
日朗、入信ひ、ものと、ぶ、龍口ふ、ふくせ、雲
にちりし、ぶ、嘉ひ、ものあり、間、ものなり、ふくあや
ものとのふくあ、日蓮、ものと、乃、甲斐国身延山

に入教となり。又義岡沈と村ゝ[illegible]授し
弘安五年。午十月十三日逝化。年六十

婿門

○ひたちの国。猪熊の西。猪熊の東。ゆきぐ[illegible]
てら　　野宮殿の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

遠福

○ひたち[illegible]婿門よりうけたまはりし[illegible]
[illegible]義貴一般。父善源行死遁しけるとき[illegible]の

まゝ。ひたちのくにのりけ[illegible]清[illegible]ぐ[illegible]
[illegible]世乃人。[illegible]
[illegible]

耳敏門

○ひたち[illegible]城南[illegible]門の半[illegible]
七瀬乃うち。未[illegible]門[illegible]
[illegible]御家の[illegible]合に。中院入道[illegible]
[illegible]

雀杜

○ひたち[illegible]

圭生

○けふハ六条堂のあや町とうよりぶくてはぐくなり
むし武義の四ノ位へ高句麗遠ゝ者流人
とうりゝ山法義ゝのゝけハりぶ法師一人の法師ゝ
遠のゝ大神宮方位ノ勿念法主法要頌の文を念誦
りゝふゝへゝてゝうびゝるゝてゝ
おゝらせゝるゝをゝとゝゝ〇ゝるゝゝ遠ゝ人ゝ者ゝ
りゝゝゝゝゝゝのゝかゝゝゝゝゝゝ

小野師

○此一ハ七ノ条堀川ノ辺ニ住ケル山法師ノ
子清盛入道浄海熱病ヲ煩フ
ツヒニ水ヲクヽミテ入テ焦死ニケリ
是ハ世ノ人病ノ故ニ焦死ケリ